

若年女性の育児に対する意識調査

——厚生労働科学研究「育児不安軽減のための小児科医の役割と プレネイタルビジットの評価に関する研究」研究報告——

東北公益文科大学 益邑 千草

1. はじめに

厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）「育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」は、東邦大学医学部多田裕教授を主任研究者として、平成13年度から平成15年度まで単年度の研究を計3年間継続して行った。

筆者は、平成14年度は研究協力者として参加し、平成15年度においては分担研究者として、「若年女性の育児に対する意識調査」を担当した。

研究の成果については厚生労働省の研究報告書に記載することになっている。また、この研究の一環として得た調査結果は、当該研究以外に用いることはできないことになっている。

一方、国の研究補助事業は、同名の研究班が複数年度にわたって存続する場合でも、各研究は原則として単年度毎に申請した予算が下りてから実施し、年度内に完了することになっている。このため研究報告書に研究成果を全部報告することが困難な場合もある。

従って、報告書以外に、研究の詳細を学会発表等の場を使って公表する努力が必要となる。どの研究費によるものかを明確にし、プライバシーの保護等、必要な配慮をした上で、公費を使った研究の成果を最大限活用すべきであろう。

報告書の冊数も限られ、厚生労働省の図書館、関係する大学や各都道府県の図書館等での閲覧など、人の目に触れる機会が限られている。報告書の概要は、厚生労働省のウェブサイトで公開されるが、公開までに時間がかかる。

以上のことから、研究報告書の内容を紹介するとともに、東北公益文科大学における調査結果を報告し、検討を加えたい。

2. 「若年女性の育児に対する意識調査」について

1.1 目 的

少子化社会での子育ての諸問題、特に育児不安の軽減のため、妊娠前の、更に結婚前の女性に対していかなる働きかけをすればよいのであろうか。若い女性たちは、子育てに関してどういう考えを持っているのかを調べるため、育児に対する意識調査を実施した。

ただし、調査は男女共学の教育施設において実施したため、アンケート調査は男女の学生を対象として実施し、結果の分析の際に必要なに応じて、女性のみ、または男性の回答も含めて分析した。

1.2 調査対象者と調査実施時期

対象者は表1のとおりである。実施時期は、平成15年7月から16年1月である。

表1 調査対象者

学 校	学科・専攻	学 年	所 在 地	男	女	計
高等学校	普通科・情報ビジネス科	1～3年生全クラス	山形県酒田市	27	630	657
大 学	公益学科	1年生特定講義受講者	山形県酒田市	112	57	169
専門学校	看護学科	2年生	東京都世田谷区	6	24	30
短期大学	社会福祉学科児童福祉学専攻	2年生	埼玉県春日部市	2	74	76

1.3 調査方法

調査は、無記名・自記式アンケートで、原則として教室内で、クラス担任教諭または授業担当講師、もしくは研究者本人の立ち会いの下で実施した。

用紙は個別の封筒に入れ、密封状態で回収し、プライバシーの保護に留意した。ただし、自分の意志で開封のまま提出した場合は、そのまま分析した。封筒は更にクラス毎の回収用封筒に入れて回収した。(後述のように個別封筒での回収はプライバシーが保護されるという安心感だけでなく、より自由な記載

を促す効果もあったようである。) 資料1は、回収用の封筒である。

1.4 調査内容

調査用紙は、B5版8頁からなる冊子形式で、諮問項目は6頁にわたり、7問からなる。選択肢から答えを選ぶものと、自由記載欄を設けたものを組み合わせた(資料2)。

1.5 調査結果について

調査結果については、高等学校、大学、専門学校、短期大学について基本的な分析を行った。

ここでは、高等学校と大学における調査結果について報告する。

A 高等学校における調査結果について(資料3)

1) 調査対象校

調査の実施に協力を得たのは、山形県酒田市立C高等学校である。

山形県は全国平均と比較しても3世代同居率が高いが、酒田市を含めて都市部は核家族化が進み同居率が下がる傾向にある。高校は庄内平野の酒田市の中央部に位置し、酒田港にも近く、海山を望む自然に恵まれた環境にある。高等女学校を前身とする女子校であったが、平成6年に普通科に加えて、情報ビジネス科を設置して男子学生を受け入れ、平成13年には普通科も男女共学となった。現在1年生は5クラス、2・3年生は6クラスで、各学年1クラスが情報ビジネス科、他が普通科である。調査実施時の在籍者は、男子27名、女子630名、計657名である。

教育課程(カリキュラム)は入学年度により異なるが、調査の時点で、調査内容との関連が考えられる科目は、養護教諭の指摘によると、「家庭看護」と「保育」である。普通科の3コースのうちの1コースの学生は、2年生で「家庭看護」、3年生で「保育」の科目があり、調査の実施時期(12月)までに修了している。後述のようにこれらの科目の履修の前後の学年では、アンケート結果に若干影響が見られる。

学生の62.4%が酒田市内の中学の出身である。卒業生の進路について(平

成14年度)は、普通科は進学63.4%、就職27.8%、情報ビジネス科は進学34.2%、就職52.6%であった。

2) アンケート調査結果

資料3は、分析結果の基礎データである。

○ アンケート回答者と、分析対象者について

アンケートは、全17クラスでホームルームの時間に、担任教諭の立ち会いの下で、無記名・自記式アンケートを実施し、個別に密封封筒で回収した。調査当日の出席者624人全員の回答を得た。

用紙の印刷に不備のあった場合は、交換できるよう予備の用紙も用意してあったが、申し出がなかったため、回収後1名について、印刷不備のため分析不能であることが判明した。この1名を除き、また男子は別に分析することとして、600名について結果を検討した。

○ 性別と年齢構成(問4の1)・2))

分析対象者について(女子600名、以下同じ)は、15歳から19歳で、平均年齢は16.8歳であった。

<1>家族の状況と乳幼児とのふれあい

○ きょうだいの人数(問1の1))

自分を含めた同胞は平均2.5人であった。半数が2人きょうだいで、3人が約4割、一人っ子は4%、4人が4%、5人も1.5%あった。

○ 同居している家族の人数(問1の2))

同居している家族の人数は平均5.1人であり、5人家族と6人家族でほぼ半数を占めている。7人以上が16.8%である。

○ 乳幼児とふれ合う機会について(問1の3)・4))

同居している家族の中に、就学前の乳幼児がいる人は3.8%で、そのほとんどはきょうだいの数が多い家庭であった。

家族だけでなく、「親戚・近所の人・友人・知人など身近な人」まで拡げて、「就学前の乳幼児を育てている人がいますか」と問うと、65%が「はい」と答えた。どこまでを身近というのか曖昧な問いではあるが、乳幼児とふれ合

う機会が決して多くはないという実状がわかる。

- 乳幼児とふれ合う機会を求めるかどうかについて（問1の5）・6))

「乳幼児とふれ合う機会が、今より多くある方がいいと思いますか」という問いには、64.5%が「はい」と答えた。

そのうち、あるといいと思う機会を選ぶ問いでは「土曜日や夏休みなど学校の休日にボランティア活動として、保育園などで保育の手伝いをする」を挙げた人が、4割強を占めた。1)～3)の選択肢には課外の活動を挙げたが、4)の自由記載欄に「学校行事として保育園などで保育の手伝いをする」など、授業時間内に機会を設けるべきなどの意見もあった。

<2>育児体験と生育歴について

- 哺乳瓶でミルクを飲ませる（問2の1))

赤ちゃんに哺乳瓶でミルクを飲ませたことがある人は4割弱であった。

1年生が35.6%、3年生が34.7%であるのに対し、3年生が46.4%であるのは保育実習の体験が影響している可能性がある。

- おむつを換える（問2の2))

赤ちゃんのおむつを換えたことがあるかどうかについては、4人に1人が経験があると答えている。3年生が29.0%と最も高いが大きな差ではない。

- 幼い子どもに排便・排尿をさせる（問2の3))

おまるやトイレで、幼い子どもに排便・排尿をさせたことがあるかどうかの問いには、同様に4人に1人が経験があると答えている。

- 一人で乳幼児の世話をする（問2の4))

上記のような具体的な子どもの世話に加えて、遊び相手をしたとか、危険がないよう見守っていたなども含めて、広い意味での子どもの世話について、「一人で乳幼児の世話を何時間かしたことがありますか」とたずねたところ、約3割があると答えた。

- 自分の母子手帳を見たことがある（問2の5))

「自分の母子手帳（母子健康手帳）を見せてもらったことがありますか。」という問いには7割強があると答えている。これは学校で自分の健康管理のために予防接種歴の確認などを促すことも影響していると考えられる。

○ 誕生時の状況を親からきいたことがある（問2の6）

「自分が生まれたときのようすを両親（もしくは祖父母など世話をしてくれた人）にきいたことがありますか」と問うと、8割強があると答えている。

○ 子育ての苦労話を親からきいたことがある（問2の7）

「子育ての苦労話を両親（もしくは祖父母など世話をしてくれた人）にきいたことがありますか」には、約65%があると答えている。

（ ）内には、夜泣きをした、ミルクを飲まなかった、バンドエイドが嫌いだっただなど、さまざまな内容が書かれていた。『『苦労話』はきかなかった。『育てやすい子だった』そうだとあり、必ずしも苦労話とは限らないという指摘もあった。

○ 自分自身の育てられ方について（問2の8）

「できればこんなふうに育ててほしかったと思うことはありますか」という問いに対しては、約2割がはいと答え、いいえが約7割で、記入なしが比較的多く1割あった。ここまでの1)～7)は、記入なしが約4%だったのに比べると、判断に迷うことであったのかもしれない。

○ こんなふうに育ててほしかったこと（問2の8）

「できればこんなふうに育ててほしかったと思うこと」の具体的な内容は、早期からおけいごをやらせてほしかったなどの要望ととらえたもの、かわいい子に産んでほしかったなどの親の努力だけでは解決できそうもないことが多く見られた。

一方では、「もっとかまってほしかった」「ほっといてほしかった」など、コミュニケーションにかかわる問題があるのではないかとと思われるものも見られた。

< 3 > 家庭についてのイメージについて

○ 家庭についてのイメージ（問3の1）

家庭のイメージについてどんなイメージを持っているのかをたずねた。多い順に、

2) 安心できる	77.2%	4) 休養できる	73.8%
1) あたたかい	70.7%	9) にぎやか	59.5%

6) いろいろ話せる	55.2%
17) いごちがよく、いつまでもいることができる	49.8%
18) いつかは巣立って、去っていくところ	39.3%
14) 疲れがとれる	36.8%

の8項目は、3割以上の学生が○をつけていた。

これらは、いわゆる「肯定的な」語句といえるであろう。

「肯定的」「否定的」という一元的な見方をするのは避けなければならないが、ここに掲げた選択肢の中で、敢えて否定的な語句に分類できるものを挙げてみると、

5) 緊張する、7) つまらない、11) しんとしている、12) 冷たい、13) 疲れるなどが当てはまると考えられる。

ただし、「しんとしている」は単に留守がちの家かもしれない。「疲れる」は家事や自営業が忙しいなど、身体的な疲れが主であったり、容易にとれる疲れの場合もあるであろう。現に⑬「疲れる」と、14)「疲れがとれる」の両方に○をつけた人も少なくなかった。

これらの項目は、「疲れる」の10.7%を除くと、いずれも一桁台である。しかし、これらの項目を2つ3つ、中には4つ選んでいる人もある。5, 7, 12, 13, 18の5つを選び、次の2)の問いに「今の生活と正反対」と書いた学生もいた。これは実際に家庭で過剰のストレスを感じ、一種のSOSを出している状態と考えられ、対応に注意を要する。

また、19)「その他」に○をつけた人はいろいろ具体的に書いてあった。「楽しい」「信頼できる」「元気になる」などのことば、「学校とは違う意味での学習の場」などのユニークな表現で家庭を語る人も多い反面、「ストレスが溜まる」「あまり自分の話をきいてもらえない」などの不満を訴える人も多い。

○ 築きたい家庭のイメージ (問3の2))

「いつか自分の家庭をつくるとしたら、どんな家庭をつくりたいですか。自由に想像してみてください。(家族構成や、日々の様子など)」の自由記載欄には、ほとんどの学生が具体的な記述をしていた。例えば、家族構成は「夫と自分と、子どもは4人」、「休日には家族で旅行に行く」「友達みたいな親子」など。

「明るい」「仲がよい」などのいわゆる肯定的な表現の他、「今の家庭とは違

う雰囲気」「ストレスで人に当たったりしない」など現在の家庭に対して批判的なもの、「内職をしなくていい」など経済的な問題や「絶対同居しない」「長女だから別居は難しいかもしれないが…」など将来にわたる家族のあり方を日頃から真剣に考えている様子が窺える。

<4>結婚と出産について

○ 性別と年齢構成（問4の1）・2))

上記のとおり、分析対象者である女子600名については、15歳から19歳で、平均年齢は16.8歳であった。

○ 既婚かどうかについて（問4の3))

分析対象者は全員「結婚していない」と答えていた。従って、問4の4)と5)は省略する。

○ 結婚するつもりかどうかについて（問4の6))

「将来、結婚するつもりですか」という問いと次の「もし結婚したら、子どもはほしいですか」という問いは、簡単なようでむずかしい質問である。即答できる人もあれば、そんなに簡単にきかないでほしいという人もあるであろう。

懸念を抱きながら、アンケートの中程に組んでみたが、まじめに答えてたようである。

「将来、結婚するつもりですか」に対しては、学年により差があるが、「はい」が約3分の2あり、「わからない」が3割弱であった。「いいえ」が全体の3.7%である。

この数字をどう評価するかはむずかしいが、まじめに選択肢を選んだ結果のように思われる。

○ 子どもがほしいかどうかについて（問4の7))

7)については、6)の答えに関わらず、記入した人が多かったことから、全体で集計した。（結婚するかどうか、子どもを産むかどうかについて、まだ明確な考えがない可能性が高いと考えられる。）「もし結婚したら、子どもはほしいですか」とたずねたところ、「ほしい」が約8割であった。

結婚するかどうかは相手もあることであるし、不確定要素が多いから、す

るかどうかは今の段階では何ともいえないが、もし結婚したら子どもはほしいという人が多いわけである。「わからない」という人は約1割、「ほしいとは思わない」人が3.5%であった。

<5>子どもの発達について

子どもの発達について、どれくらい把握しているのでしょうか。適切な時期を4つの選択肢から選ぶ質問を設けた。

やや質問が曖昧で、回答に苦労したらしく、何度も消して選び直したり、選択肢と選択肢のちょうど中間点に苦渋の○を書いたりしており、真剣に悩んだ様子がうかがえた。質問の出し方を反省し、今後の調査に反映したい。

なお、前述のように、一部のコースの学生は、2年生で「家庭看護」、3年生で「保育」の科目を受講しており、これらの科目の履修の前後の学年ではアンケート結果に若干影響が見られる。

○ おっぱい(母乳)を飲まなくなり、哺乳瓶を使わなくなるのは(問5の1))

いわゆる断乳の時期をたずねたものであるが、「1歳6ヵ月ごろ」と答えたのは約54%で、これについては学年が上がるほど率が高くなっている。「生後6ヵ月ごろ」と答えた3割弱の学生は、最近「断乳」といわずに「離乳」というようになったことから離乳食の開始時期を考えていたのかもしれない。全く哺乳瓶を使わなくなる時期が遅い子もいるので、「3歳ごろ」と答えた1割強の学生は自分がそうだったときいていたのかもしれない。今後は理由をたずねてみたい。

○ 転ばずにひとりで歩けるようになるのは(問5の2))

「転ばずにひとりで歩けるようになる」のは「1歳6ヵ月ごろ」と答えた人が約54%で、これは学年によりばらつきがある。独歩の時期をたずねたのだが、質問の「転ばずに」というところがより年長児を想像させ、紛らわしかったのかもしれない。もっとも母子健康手帳は1歳6ヵ月ごろの項目に「ひとりで上手に歩きますか」が入っている。

「3歳ごろ」という答えが約27%であった。「生後8ヵ月ごろ」というのも12%あり、お誕生前に歩く子もいるし、お祝いの行事もあることから紛らわしい質問であったようだ。

○ おむつがとれる（いらなくなる）のは（問5の3）

「おむつがとれる」時期は個人差が大きい。自分の小さいときの話もよくきいているのであろうか、「3歳ごろ」という答えが約6割であった。次に多いのは「1歳ごろ」で、4人に1人くらい。立つて歩くようになればおむつがいらなくなると考えたのかもしれない。

○ マンマ、ブーブーなど、意味のあることばを話すようになるのは（問5の4）

「ことばを話すようになる」のは「1歳6ヵ月ごろ」が5割強であった。

「意味のある」というところがわかりにくかったのであろうか、「生後8ヵ月ごろ」ではまだ喃語で、ウマウマ、ブーなどという音を出せたとしても意味を持たせているわけではないのだが。3割近くが「8ヵ月ごろ」を選んでいた。「3歳ごろ」が1割強あるのは、自分自身もことばがゆっくりだったときいている、という場合もあるかもしれない。

<6>少子化の原因について（問6）

「近年、日本では出生数が減少し、年少者が人口に占める割合も低下し続けています。少子化の原因として、考えられることはどんなことですか。自分の考えに近いものには○（いくつでも）、最も近いもの1つには◎をつけてください」

これも答えに悩む質問であったと思われる。このような質問はどうしても選択肢に偏りができ、答えを誘導してしまう可能性がある。偏りを防ごうとして、選択肢を増やしたため、12も短文が並ぶことになった。アンケートとしてはどちらかというと望ましくない設定である。ところが、まじめに回答していた。

○も◎もつけなかった人は8人だけで（時間が足りなかったわけではなく問7は答えていた）、○と◎の数の合計1925から、一人当たり約3.3個の印をつけたわけである。中には2個以上◎をつけた学生もいたが、◎だけ1つつけた人、○をつけたあと◎を選ぶのに悩んだらしい人、13)にだけ○をつけて（ ）内に自分の意見を書いた人も数人いた。

◎印では、7)「女性がやりがいのある仕事を持ち、出産や育児は、仕事と両立できることを条件にするようになったから」が群を抜いて多かった。

次いで8)「子育てに費用が、かかりすぎるから（例えば、出産費用・おけ

いごと・学費など)」、1)「結婚すれば子どもをつくるのがふつうであるという人が減ってきたから」と続く。

○印では同様に、7)に次いで、1)、8)が多く、それに5)が続く。「望ましい子どもに育てるには親が手をかける必要があるので、少人数しか育てられないから」である。

自由記載の欄では、「経済的な問題」の指摘が複数あった。8)に子育て費用を挙げているが、それより以前の生活の維持、住宅事情など鋭い指摘があった。

また、目立ったのは「児童虐待」を挙げた人が多かったことで、子どもを殺してしまうから子どもが少ないと考えていることがわかる。

<7>少子化について、今後の予測と対策(問7)

これも表現に苦慮した質問で、かえってわかりにくい表現になったようである。

○ 少子化の今後の予測(問7の1))

「今後も少子化が続くと思いますか」については「はい」が約7割、「わからない」が3割であった。「いいえ」も2.3%あり、それぞれ自分なりに考えた上での答えと考えられる。

○ 少子化対策について(問7の2))

「少子化傾向にブレーキをかけるような対策をとるべきだと思いますか」、曖昧な問いであったため、「対策ってよくわかりませんが」とか、「子どもをたくさん産めばいい」という答えもあった。「はい」が約35%、「わからない」が55%で、高校生としては正直なところではないだろうか。「いいえ」が9.7%、つまり1割近くがはっきりノーといっている。

○ 少子化対策の内容(問7の3))

「はいと答えた方へどのような対策をとればいいと思いますか。最も重要だと思うものを3つまであげてください」。自由記載の欄には、出産に対して補助金を出すという意味の対策などを自分なりの表現で書いていた。

○ 「特に詳しく述べたいアイデアや意見があれば、下の欄に自由に書いてください」

ユニークな意見として、「男性も子どもを産めばいい」というのがあった。

出産も育児も女性にばかり負担がかかる、男性は楽をしすぎだという意味のことが述べられていた。また、「少子化は何とかなしないと日本が減びてしまう」と書いた人もおり、一方で「少子化は必ず止まる」というコメントもあった。

B 東北公益文科大学における調査結果について（資料4）

資料4は、分析結果の基礎データである。

○ アンケート回答者と、分析対象者について

アンケートは、東北公益文科大学のO教授の講義の出席者に対して実施し、199名の回答を得た。内訳は1年生169名、2年生30名であった。

今回は1年生169名について分析を行った。後述の理由により、男女全体の数字を掲げた。

○ 性別と年齢構成（問4の1）・2))

アンケート回答者の性別は、男性113名、女性55名（性別に記入のなかったもの1名）であった）。男性の平均年齢は19.1歳、女性は19.4歳、全体では19.2歳であった。

年齢別では、男女とも19歳が最も多くて、59.8%をしめ、18歳と19歳で79.3%を占める。この点では、高等学校の調査と比べて、少し年長の学生の意見を集めたということになる。

男女とも、少数の年長者がおり、2名が結婚していて子どもがあると答えている。

今回のアンケート結果の分析には、問題の性質上、性別別・年齢別・未婚既婚の別、子どもの有無などの点との関連について、回答を分析すべきであるが、場合によっては対象者の該当数が少なく、個人を特定できる可能性もあることから、公表する数字としては、敢えて詳細を控えることとした。

このため、「若年女性の」育児意識が課題ではあるが、大学での調査は男女全体の数字を掲げた。

<1>家族の状況と乳幼児とのふれあい

○ きょうだいの人数（問1の1))

自分を含めた同胞は平均2.5人であった。半数が2人きょうだいで、3人

が4割弱、一人っ子は約5%、4人が約5%、5人も1.2%あった。高校のデータとほぼ同様である。

○ 同居している家族の人数（問1の2）

平均4.8人であり、6人家族が約3割で最も多い。5人家族と6人家族で約半数を占めている。

○ 乳幼児とふれ合う機会について（問1の3）・4）

同居している家族の中に就学前の乳幼児がいる人は、3.0%であるが、66.9%の人は、身近に乳幼児を育てている人がいると答えた。

○ 乳幼児とふれ合う機会を求めるかどうかについて（問1の5）・6）

そういう機会が今より多くある方がいいと答えたのは、63.9%に当たる108人であった。

そのうち、64人（59.3%）は「土曜日や夏休みなど学校の休日に、児童館などの催しに参加する」機会があるといいと答え、「（同じく）学校の休日にボランティア活動として、保育園などで保育の手伝いをする」を挙げた人が51人と多かった。

<2>育児体験と生育歴について

○ 哺乳瓶でミルクを飲ませる（問2の1）

赤ちゃんに哺乳瓶でミルクを飲ませたことがある人は31.4%であった。

○ おむつを換える（問2の2）

赤ちゃんのおむつを換えた経験がある人は15.4%であった。

○ 幼い子どもに排便・排尿をさせる（問2の3）

おまるやトイレで幼い子どもに排便・排尿をさせたことがあるのは14.2%であった。

○ 一人で乳幼児の世話をする（問2の4）

広い意味での子どもの世話については、21.9%があると答えた。

○ 自分の母子手帳を見たことがある（問2の5）

自分の母子健康手帳を見たことがあるのは、59.7%であった。

○ 誕生時の状況を親からきいたことがある（問2の6）

自分が生まれたときのようすを親などからきいたことがあるのは79.8%

であった。

- 子育ての苦労話を親からきいたことがある（問2の7）

子育ての苦労話をきいたことがあるのは、約66.8%であった。

- 自分自身の育てられ方について（問2の8）

「できればこんなふうに育ててほしかったと思うことはありますか」という問いに対しては、13.0%がはいと答え、いいえは77.5%で、記入なしが比較的多く9.5%であった。

< 3 > 家庭についてのイメージについて

- 家庭についてのイメージ（問3の1）

家庭のイメージについてどんなイメージを持っているのかをたずねた。多い順に、

2) 安心できる	77.5%	4) 休養できる	73.4%
1) あたたかい	69.2%	9) にぎやか	50.3%
6) いろいろ話せる			48.5%
17) いごちがよく、いつまでもいることができる			43.8%
18) いつかは巣立って、去っていくところ			41.4%
14) 疲れがとれる			40.8%

の8項目は、4割以上の学生が○をつけていた。

しかもこれらの8項目は、高校での調査と全く同じ順位であった。

- 19) 「その他」に○をつけた人が（ ）内に書いたことは、「ふつう」「空気のようなもの」「帰るところ」「特に感じない」などであった。

< 4 > 結婚と出産について

- 性別と年齢構成（問4の1）・2）・3）・4）・5）

上述のとおりである。

- 結婚するつもりかどうかについて（問4の6）

「将来、結婚するつもりですか」に対しては、「はい」が63.5%、「わからない」が27.5%で、「いいえ」が7.2%であった。

- 子どもがほしいかどうかについて（問4の7）

7) については、6) の答えに関わらず、記入した人が多かったことから、全体で集計した。

「もし結婚したら、子どもはほしいですか」とたずねたところ、「ほしい」が74.3%であった。「わからない」という人は13.2%、「ほしいとは思わない」人が3.6%であった。

<5>子どもの発達について

○ おっぱい（母乳）を飲まなくなり、哺乳瓶を使わなくなるのは（問5の1）
「1歳6ヵ月ごろ」と答えたのは56.8%で、「生後6ヵ月ごろ」と答えた人が32.5%あった。

○ 転ばずにひとりで歩けるようになるのは（問5の2）
「1歳6ヵ月ごろ」と答えた人が55%で、「3歳ごろ」という答えが29%であった。「生後8ヵ月ごろ」というのも10.7%あった。

○ おむつがとれる（いらなくなる）のは（問5の3）
「3歳ごろ」という答えが58%であった。次に多いのは「1歳ごろ」で30.2%であった。

○ マンマ、ブーブーなど、意味のあることばを話すようになるのは（問5の4）
「1歳6ヵ月ごろ」が49.1%であった。「生後8ヵ月ごろ」が28.4%、「3歳ごろ」が16.6%であった。

<6>少子化の原因について（問6）

◎印では、7）「女性がやりがいのある仕事を持ち、出産や育児は、仕事と両立できることを条件にするようになったから」が最も多かった。次いで8）「子育てに費用が、かかりすぎるから」、1）「結婚すれば子どもをつくるのがふつうである」という人が減ってきたから」と続く。

○印では同様に、7）に次いで、8）、1）が多く、それに10）と5）、12）が続く。

いずれも高校と同様の傾向である。

< 7 > 少子化について、今後の予測と対策（問 7）

○ 少子化の今後の予測（問 7 の 1）

「今後も少子化が続くと思いますか」については「はい」が79.9%、「わからない」が18.3%、「いいえ」が1.2%であった。

○ 少子化対策について（問 7 の 2）

「はい」が40.2%、「わからない」が35.5%で、「いいえ」が23.1%であった。

高校生の回答と比較すると、1) の「わからない」が少なく、「はい」が多い。

2) も「わからない」が少なく、「はい」「いいえ」がそれぞれ多い。

3. 考 察

3. 1 高等学校の調査結果について

今回の高等学校の調査においては、全体としては、育児に関する知識や問題意識は充分とはいえないまでもある程度は備えていること、未確定の条件が多い高校生の段階でも、自分の将来をかなり具体的に捉えようとしていることがわかった。

結婚や出産、育児を含めて、自分の将来の生活をどのように組み立てていくべきか、それには何が必要かということを具体的に考えさせるということは、様々な機会や情報が適切に用意されれば、高校生の段階で十分に活用できると思われる。

更には、それ以前の生育状況も影響するため、中学生レベルでも実態を把握すべきであると思われる。今後も若い世代の意識とニーズを詳細に調査し、支援を具体化していく必要がある。

調査対象となった高等学校には、調査結果の報告の後、学生に小児科医として子育ての話をしてはどうかと考えていた。しかし、個々の調査用紙を読みると、むしろ個別の相談が必要であり、自分の心身の健康も、家族のことも含めて親や担任の教諭とは異なる立場からのきめ細かい支援が求められていると感じている。

小児科医の立場としては、プレネイタルに始まり、思春期、思春期も早期から日常的に関わっていく必要性を痛感した。

3.2 大学の調査結果について

今回、大学で実施した調査は、回答者の人数が少ないため、男女の比較が困難であるなどの点で、統計データとしては参考値に留まるかと思われた。しかし、単純集計の段階でも、問7及び一部の質問を除いて、高等学校の学生の回答とよく似た回答のパターンを示し、たいへん興味深い。特に家庭のイメージをたずねた問3では、複数回答にも関わらず、上位8位までが全く一致していた。更に検討を加えていきたい。

4. 終わりに

今回の調査は、若年女性の育児意識を調査するに当たり、特に対象者が答えやすい形式を模索しながら、パイロット的に実施した調査という側面を持っている。上述のように、600名の女子高校生と、169名の男女の大学生の集団で、ほぼ同様の回答パターンを示すなど、興味深い結果が得られている。

また、各学校には、授業時間中のアンケート調査実施にご協力をいただくという状況下で、実施できる最大限の質問項目を選んだ。従って、人数や性別、年齢構成などについて、分析上、工夫を要する点もあり、更に詳しく解析して、今後の調査に備えたい。

今後は、異なる地域、すなわち、都市部や他の環境にある高等学校の学生との比較調査を実施する、育児期までコホート調査をする、年齢層毎に男女差を比較するなど、発展させていきたい。

最後になりましたが、この度の調査にご協力くださいました酒田市立C高等学校、酒田市健康福祉部健康課、東北公益文科大学等の関係者の方々に感謝いたします。

○参考文献

厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）「育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」平成 15 年度研究報告書、平成 16 年 3 月、596－616 頁

資料1 アンケート提出用封筒（個人用）

アンケート提出用封筒

厚生労働省厚生科学研究

「育児不安軽減のための小児科医の役割と
プレネイタルビジットの評価に関する研究」
～育児に対する意識調査～

分担研究者：東北公益文科大学講師

益邑 千草

問合せ先：東北公益文科大学教務課

アンケート回収用封筒（組用）

アンケート提出用封筒

学校名： _____ 学校

学年・組： _____ 年 _____ 組

配布数： _____ 部

回収数： _____ 部

厚生労働省厚生科学研究

「育児不安軽減のための小児科医の役割と
プレネイタルビジットの評価に関する研究」
～育児に対する意識調査～

分担研究者：東北公益文科大学講師

益邑 千草

問合せ先：東北公益文科大学教務課

資料2 アンケート調査用紙

子育てについてのアンケートのお願い

- ☆ 子どもたちが伸び伸びと育ち、生き生きと遊び、健康な生活を過ごすためには、どうすればよいでしょうか。
- ☆ 皆さんが子育てについてどのように考えているのか、アンケートに答えてください。

- 1) テストではないので、皆さんが思ったとおりのことを書いてください。
- 2) 答えたくない問いがあれば、とばしてもかまいませんが、簡単でもよろしいからなるべく問いに答えるようにしてください。
- 3) 書き終わったら、この用紙を封筒に入れて提出してください。

記憶があいまいで書けないところがあっても、調べるために用紙を持ち帰ったりしないでください。

このアンケートは、厚生労働省の「育児不安軽減のための小児科医の役割と、プレネイタルビジットの評価に関する研究」(主任研究者:東邦大学医学部多田裕教授)の平成15年度分担研究「若年男女の育児に対する意識調査」です。

アンケート用紙は封筒に入れたまま、研究者のもとまで届きます。
研究以外の目的に使うことはありません。アンケート用紙に番号が入っている場合がありますが、個人を特定することはありません。

報告書には調査結果の分析を公表しますが、個人のプライバシーに関わるような詳しい回答内容は記載しません。

問い合わせ先:東北公益文科大学 益邑千草

それぞれの問いについて、当てはまるものを○で囲んでください。

()の中には、数字やことばを書き入れてください。

【1】あなたの身の回りのことについて

- 1) あなたは何人きょうだいですか。(あなた自身を含む) ()人
- 2) 同居している家族の人数は(あなた自身を含む) ()人
- 3) その中に、就学前の(＝小学校へ入学するまでの)乳幼児がいますか。
(はい・いいえ)
- 4) 今、あなたの家族・親戚(しんせき)・近所の人・友人・知人など身近な人で、就学前の乳幼児を育てている人がいますか。(はい・いいえ)

5) 乳幼児とふれ合う機会が、今より多くある方がいいと思いますか。

(例えば、抱っこをしてあやす、いっしょに遊ぶなど) (はい・いいえ)

「はい」と答えた方は、 6) へ進んでください。

「いいえ」と答えた方は、 【2】へ進んでください。

6) あると思うものに○をつけてください (いくつでも)。

「その他」に○をつけた方はその内容を () 内に書いてください。

() 1) 土曜日や夏休みなど学校の休日に、児童館などで幼い子どもと遊ぶ
催しに参加する。

() 2) 土曜日や夏休みなど学校の休日にボランティア活動として、保育園
などで保育の手伝いをする。

() 3) 土曜日や夏休みなど学校の休日にボランティア活動として、保健所
などで、乳幼児健診に来た乳幼児の着替えなどを手伝う。

() 4) その他

()

【2】あなたの子育て体験や子どものころの様子について

1) あなたは、赤ちゃんに、ほにゅうびん(哺乳瓶)でミルクを飲ませたことがあ
りますか。 (はい・いいえ)

2) あなたは、赤ちゃんのおむつを換えたことがありますか。
(はかせるタイプ、パンツ式のおむつをふくむ) (はい・いいえ)

3) あなたは、おまるやトイレで、幼い子どもに排便・排尿をさせたことがありま
すか。 (はい・いいえ)

4) あなた一人で乳幼児の世話を何時間かしたことがありますか。
(はい・いいえ)

5) あなたは、自分の母子手帳(母子健康手帳)を見せてもらったことがあります
か。 (はい・いいえ)

6) あなたは、自分が生まれたときのようすを両親(もしくは祖父母など世話をし
てくれた人)にきいたことがありますか。 はい・いいえ)

7) あなたは、子育ての苦労話を両親(もしくは祖父母など世話をしてくれた人)
にきいたことがありますか。 (はい・いいえ)

「いいえ」と答えた方は8)へ進んでください。

「はい」と答えた方へ、どんなことだったのか簡単に書いてください。

(例えば: 夜泣きがひどかった、など)

()

8) できればこんなふうに育ててほしかったと思うことはありますか。

(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた方は【3】へ進んでください。

「はい」と答えた方へ、それはどんなことなのか簡単に書いてください。

()

【3】「家庭」のイメージについて

あなたは、「家庭」について、どんなイメージを持っていますか。

あなたの考えに近いものに○をつけてください（いくつでも）。

「その他」に○をつけた方はその内容を（ ）内に書いてください。

- | | |
|------------------------------|------------------|
| () 1) あたたかい | () 2) 安心できる |
| () 3) ひとりになれる | () 4) 休養できる |
| () 5) 緊張する | () 6) いろいろ話せる |
| () 7) つまらない | () 8) 狭い |
| () 9) にぎやか | () 10) 広々としている |
| () 11) しんとしている | () 12) 冷たい |
| () 13) 疲れる | () 14) 疲れがとれる |
| () 15) いろいろな人がいる | () 16) 気の合う人がいる |
| () 17) いごちがよく、いつまでもいることができる | |
| () 18) いつかは巣立って、去っていくところ | |
| () 19) その他 | |

()

- 2) いつか、あなたが自分の家庭をつくるとしたら、どんな家庭をつくりたいですか。自由に想像してみてください。(家族構成や、日々の様子など)

()

【4】あなた自身のことについて

- 1) 満年齢は () 歳
- 2) 性別は (男性・女性)
- 3) 結婚していますか (結婚している・結婚していない)
- 「している」と答えた方は 4) へ進んでください
- 「していない」と答えた方は 6) へ進んでください
- 4) お子さんはありますか。 (子どもがいる・子どもはいない)
- 5) 子どもは何人くらいほしいですか。

(ほしい () 人・ほしいとは思わない・わからない)

【5】へ進んでください

- 6) 将来、結婚するつもりですか。 (はい・いいえ・わからない)

「いいえ」と答えた方は、【5】へ進んでください

「はい」「わからない」と答えた方は、7)へ進んでください

7) もし結婚したら、子どもはほしいですか。

(ほしい・ほしいとは思わない・わからない)

【5】赤ちゃんは、からだが大きくなるにつれて、いろいろなことができるようになりますね。次のようなことができる年齢は、だいたいいつごろだと思いますか(その年齢の子どもたちはほぼみんなできている、と思われるころ)。1つ選んで○で囲んでください。

- 1) おっぱい(母乳)を飲まなくなり、ほにゅうびんを使わなくなるのは
(生後6ヵ月ごろ、1歳6ヵ月ごろ、3歳ごろ、4歳6ヵ月ごろ)
- 2) 転ばずにひとりで歩けるようになるのは
(生後8ヵ月ごろ、1歳6ヵ月ごろ、3歳ごろ、4歳6ヵ月ごろ)
- 3) おむつがとれる(いらなくなる)のは
(生後10ヵ月ごろ、1歳ごろ、3歳ごろ、5歳ごろ)
- 4) マンマ、ブーブーなど、意味のあることばを話すようになるのは
(生後8ヵ月ごろ、1歳6ヵ月ごろ、3歳ごろ、4歳6ヵ月ごろ)

【6】少子化について

近年、日本では出生数が減少し、年少者が人口に占める割合も低下し続いています。少子化の原因として、考えられることはどんなことですか。

あなたの考えに近いものには○(いくつでも)、最も近いもの1つには◎をつけてください。

「その他」に○をつけた方はその内容を簡単に()内を書いてください。

- () 1) 結婚すれば子どもをつくるのがふつうであるという人が減ってきたから
- () 2) 老後を子どもに養ってもらうために子どもを産むという人が減ってきたから
- () 3) 家を継ぐのは男の子だから、男の子が生まれるまで子どもを産むという人が減ってきたから
- () 4) 既に生まれたが女(または男)の子だから、男(または女)の子が生まれるまで子どもを産むという人が減ってきたから
- () 5) 望ましい子どもに育てるには親が手をかける必要があるので、少人数しか育てられないから
- () 6) 一人っ子は育てにくい、一人っ子は社会性が育ちにくいなどと、一人っ子を否定的に考える人が減ってきたから
- () 7) 女性がやりがいのある仕事を持ち、出産や育児は、仕事と両立

() 8) 子育てに費用が、かかりすぎるから
(例えば、出産費用・おけいごと・学費など)

() 9) 子育てにふさわしい住宅が手に入りにくいから
(例えば、広くて子ども部屋がある、子どもの泣き声や騒ぐ音を
気にしなくてもよい環境である、など)

() 10) 保育園などの親に代わって子育てをする施設が充分でないから

() 11) 子どもの健康を守る病院などの医療機関が充分でないから

() 12) 子育ての悩みの相談にのったりする支援体制が充分でないから

() 13) その他

()

- 1) 今後も少子化が続くと思いますか。 (はい・いいえ・わからない)
- 2) 少子化傾向にブレーキをかけるような対策をとるべきだと思いますか。
(はい・いいえ・わからない)
- 3) 「はい」と答えた方へどのような対策をとればよいと思いますか。

64

資料3-高等学校の調査結果

問1 1)

人数	1年生	2年生	3年生	計
1人	3 (1.7%)	14 (6.4%)	7 (3.4%)	24 (4.0%)
2人	79 (45.4%)	124 (56.6%)	100 (48.3%)	303 (50.5%)
3人	80 (46.0%)	69 (31.5%)	89 (43.0%)	238 (39.7%)
4人	9 (5.2%)	7 (3.2%)	8 (3.9%)	24 (4.0%)
5人	3 (1.7%)	3 (1.4%)	3 (1.4%)	9 (1.5%)
記入なし	0 (0.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)
平均	2.6人	2.4人	2.5人	2.5人

問1 2)

人数	1年生	2年生	3年生	計
1人	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.2%)
2人	1 (0.6%)	5 (2.3%)	10 (4.8%)	16 (2.7%)
3人	14 (8.0%)	33 (15.1%)	19 (9.2%)	66 (11.0%)
4人	30 (17.2%)	47 (21.5%)	39 (18.8%)	116 (19.3%)
5人	50 (28.7%)	58 (26.5%)	62 (30.0%)	170 (28.3%)
6人	43 (24.7%)	49 (22.4%)	38 (18.4%)	130 (21.7%)
7人	28 (16.1%)	20 (9.1%)	27 (13.0%)	75 (12.5%)
8人	5 (2.9%)	5 (2.3%)	6 (2.9%)	16 (2.7%)
9人	2 (1.1%)	2 (0.9%)	4 (1.9%)	8 (1.3%)
10人以上	*1 (0.6%)	0 (0.0%)	* * 1 (0.5%)	2 (0.3%)
記入なし	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)
平均	5.4人	4.9人	5.1人	5.1人
	* 13人		* * 10人	

問1 3)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	11 (6.3%)	4 (1.8%)	8 (3.9%)	23 (3.8%)
いいえ	163 (93.7%)	214 (97.7%)	199 (96.1%)	576 (96.0%)
記入なし	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問1 4)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	112 (64.4%)	141 (64.4%)	137 (66.2%)	390 (65.0%)
いいえ	62 (35.6%)	77 (35.1%)	69 (33.3%)	208 (34.7%)
記入なし	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	2 (0.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問1 5)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	111 (63.8%)	133 (60.7%)	143 (69.1%)	387 (64.5%)
いいえ	62 (35.6%)	85 (38.8%)	63 (30.4%)	210 (35.0%)
記入なし	1 (0.6%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	3 (0.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問1 6) (複数回答)

() の％は各学年の人数に対して

	1 年生	2 年生	3 年生	計
1	41 (23.4%)	42 (19.2%)	76 (36.7%)	159 (26.5%)
2	*80 (48.8%)	**89 (40.6%)	***88 (42.5%)	#257 (42.8%)
3	35 (20.1%)	42 (19.2%)	51 (24.6%)	128 (21.3%)
4	8 (4.6%)	10 (4.6%)	19 (9.2%)	37 (6.2%)
記入なし	2 (1.2%)	11 (5.0%)	3 (1.5%)	2 (0.3%)
1～4の計(延べ)	164	183	234	581

*5) 「はい」の
111名

に対して72.1%

**5) 「はい」の
133名

に対して66.9%

***5) 「はい」
の143名

に対して61.5%

#5) 「はい」の
387名

に対して66.4%

問2 1)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	62 (35.6%)	76 (34.7%)	96 (46.4%)	234 (39.0%)
いいえ	102 (58.6%)	138 (63.0%)	102 (49.3%)	342 (57.0%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	209 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 2)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	46 (26.4%)	49 (22.4%)	60 (29.0%)	155 (25.8%)
いいえ	118 (67.8%)	165 (75.3%)	138 (66.7%)	421 (70.2%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 3)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	40 (23.0%)	43 (19.6%)	66 (31.9%)	149 (24.8%)
いいえ	125 (71.8%)	171 (78.1%)	132 (63.8%)	428 (71.3%)
記入なし	9 (5.2%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	23 (3.8%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 4)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	52 (29.9%)	50 (22.8%)	74 (35.7%)	176 (29.3%)
いいえ	112 (64.4%)	164 (74.9%)	124 (59.9%)	400 (66.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 5)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	112 (64.4%)	166 (75.8%)	149 (72.0%)	427 (71.2%)
いいえ	52 (30.0%)	48 (21.9%)	48 (23.2%)	148 (24.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	10 (4.8%)	25 (4.2%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 6)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	134 (77.0%)	185 (84.5%)	169 (81.6%)	488 (81.3%)
いいえ	30 (17.2%)	29 (13.2%)	29 (14.0%)	88 (14.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 7)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	109 (62.6%)	143 (65.3%)	137 (66.2%)	389 (64.8%)
いいえ	56 (32.2%)	70 (32.2%)	61 (29.5%)	187 (31.2%)
記入なし	9 (5.2%)	6 (2.7%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問2 8)

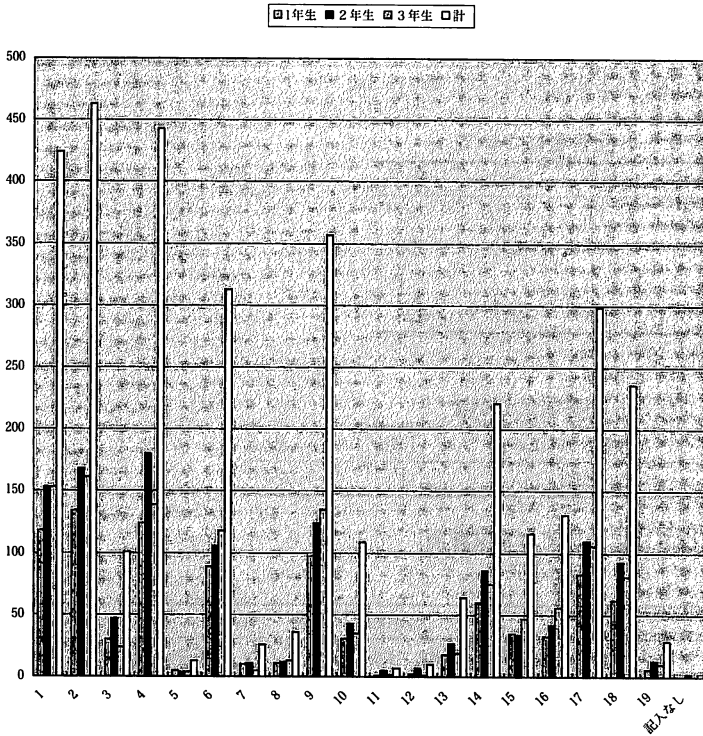
	1年生	2年生	3年生	計
はい	29 (16.7%)	51 (23.3%)	42 (20.3%)	122 (20.3%)
いいえ	127 (73.0%)	148 (67.6%)	140 (67.6%)	415 (69.2%)
記入なし	18 (10.3%)	10 (4.6%)	25 (12.1%)	63 (10.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問3 1) (複数回答)

	1年生	2年生	3年生	計	* %
1	118	153	153	424	70.7
2	134	168	161	463	77.2
3	30	47	24	101	16.8
4	124	180	139	443	73.8
5	5	4	4	13	2.2
6	89	106	118	313	52.2
7	10	11	5	26	4.3
8	11	12	13	36	6.0
9	98	124	135	357	59.5
10	31	43	35	109	18.2
11	1	5	1	7	1.2
12	2	7	1	10	1.7
13	18	27	19	64	10.7
14	60	86	75	221	36.8
15	35	34	47	116	19.3
16	33	42	56	131	21.8
17	83	110	106	299	49.8
18	62	93	81	236	39.3
19	6	13	10	29	4.8
記入なし	0	2	0	2	0.8

*600名に対する百分率

問3 1)



問4 1)・2) アンケート回答者について

	年 齢						記入なし	計
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳		
男子	0	4	11	6	0	1	* 1	23
女子	40	191	213	153	1	0	** 2	600
不明#								*** 1
計	40	195	224	159	1	1	3	624

#印刷の不備による

男子22名平均17.2歳

女子598名平均16.8歳

* 2年生

** 1年生・3年生

*** 3年生

問4 1)・2) 分析対象者について

	年 齢						計
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	記入なし	
女子	40	191	213	153	1	2	600

年齢の記載のある598名について 平均16.8歳

問4 2) アンケート回答者について

	1年生	2年生	3年生	計
男子	2	11	10	23
女子	174	219	207	600
不明*			1	1
計	176	230	218	624

*印刷の不備による

問4 3) アンケート回答者について

結婚している	結婚していない	不明	計
0	623	1	624

問4 4) 及び5) については本文参照。

問4 6)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	113 (64.9%)	131 (59.8%)	156 (75.4%)	400 (66.7%)
いいえ	8 (4.6%)	9 (4.1%)	5 (2.4%)	22 (3.7%)
わからない	50 (28.7%)	73 (33.3%)	40 (19.3%)	163 (27.2%)
記入なし	3 (1.7%)	6 (2.7%)	6 (2.9%)	15 (2.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問4 7)

	1年生	2年生	3年生	計
ほしい	137 (78.7%)	166 (75.8%)	173 (83.6%)	476 (79.3%)
ほしいとは思わない	3 (1.7%)	10 (4.6%)	8 (3.9%)	21 (3.5%)
わからない	20 (11.5%)	25 (11.4%)	14 (6.8%)	59 (9.8%)
記入なし	14 (8.0%)	18 (8.2%)	12 (5.8%)	44 (7.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問5 1)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
生後6 ヶ月ごろ	50 (28.7%)	67 (30.6%)	55 (26.6%)	172 (28.7%)
1歳6 ヶ月ごろ	90 (51.7%)	116 (53.0%)	116 (56.0%)	322 (53.7%)
3歳ごろ	21 (12.1%)	26 (11.9%)	25 (12.1%)	72 (12.0%)
4歳6 ヶ月ごろ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	2 (0.3%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	*9 (4.3%)	32 (5.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

*うち2は、「生後6 ヶ月ごろ」と
「1歳6 ヶ月ごろ」の中間に○

問5 2)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
生後8 ヶ月ごろ	19 (10.9%)	27 (12.3%)	26 (12.6%)	72 (12.0%)
1歳6 ヶ月ごろ	93 (53.4%)	129 (58.9%)	104 (50.2%)	326 (54.3%)
3歳ごろ	45 (25.9%)	49 (22.4%)	67 (32.4%)	161 (26.8%)
4歳6 ヶ月ごろ	5 (2.9%)	4 (1.8%)	2 (1.0%)	11 (1.8%)
記入なし	12 (6.9%)	10 (4.6%)	*8 (3.9%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

*うち1は、「生後8 ヶ月ごろ」と
「1歳6 ヶ月ごろ」の中間に○

問5 3)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
生後10 ヶ月ごろ	3 (1.7%)	3 (1.4%)	4 (1.9%)	10 (1.7%)
1歳ごろ	42 (24.1%)	60 (27.4%)	44 (21.3%)	146 (24.3%)
3歳ごろ	99 (56.9%)	124 (56.6%)	134 (64.7%)	357 (59.5%)
5歳ごろ	17 (10.0%)	22 (10.0%)	18 (8.7%)	57 (9.5%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	7 (3.4%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

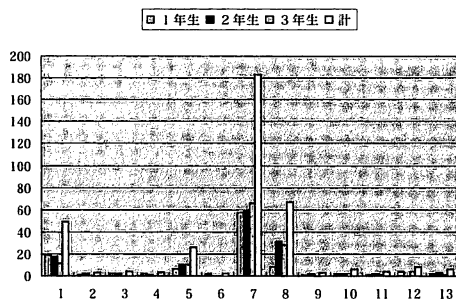
問5 4)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
生後8 ヶ月ごろ	55 (31.6%)	56 (25.6%)	58 (28.0%)	169 (28.2%)
1歳6 ヶ月ごろ	87 (50.0%)	114 (52.1%)	114 (55.1%)	315 (52.5%)
3歳ごろ	16 (9.2%)	34 (15.5%)	24 (11.6%)	74 (12.3%)
4歳6 ヶ月ごろ	3 (1.7%)	5 (2.3%)	4 (1.9%)	12 (2.0%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	7 (3.4%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問6 ◎印

	1年生	2年生	3年生	計
1	19	18	12	49
2	1	2	0	3
3	2	2	0	4
4	2	1	0	3
5	6	10	10	26
6	2	0	0	2
7	58	59	66	183
8	8	31	28	67
9	1	2	0	3
10	2	2	2	6
11	1	2	1	4
12	4	0	4	8
13	2	3	1	6
計(延べ)	108	132	124	364

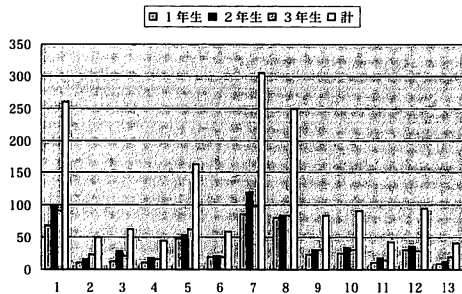
問6 ◎印



問6 ○印

	1年生	2年生	3年生	計
1	69	100	91	260
2	10	17	24	51
3	12	28	22	62
4	10	18	17	45
5	48	53	63	164
6	19	21	19	59
7	86	120	99	305
8	80	85	85	250
9	24	30	31	85
10	26	34	31	91
11	11	18	14	43
12	31	36	28	95
13	9	13	19	41
計(延べ)	445	573	543	1,561
○も◎も記入なし	1	6	1	8

問6 ○印



問 7 1)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	126	151	137	414 (69.0%)
いいえ	1	7	6	14 (2.3%)
わからない	46	60	64	170 (28.3%)
記入なし	1	1	0	2 (0.3%)
計	174	219	207	600 (100.0%)

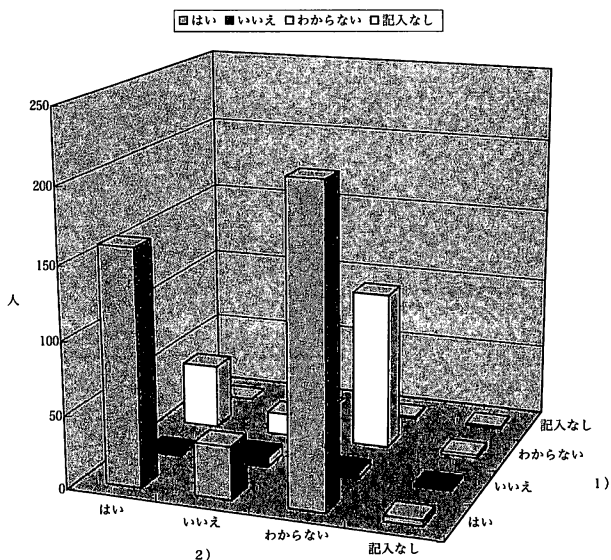
問 7 2)

	1 年生	2 年生	3 年生	計
はい	70	70	67	207 (34.5%)
いいえ	10	21	27	58 (9.7%)
わからない	92	124	111	327 (54.5%)
記入なし	2	4	2	8 (1.3%)
計	174	219	207	600 (100.0%)

問 7 1) と 2)

		2)				
		はい	いいえ	わからない	記入なし	計
1)	はい	161	36	213	4	414 (69.0%)
	いいえ	2	7	4	1	14 (2.3%)
	わからない	44	15	109	2	170 (28.3%)
	記入なし	0	0	1	1	2 (0.3%)
	計	207 (34.5%)	58 (9.7%)	327 (54.5%)	8 (1.3%)	600 (100.0%)

問 7



資料4-大学の調査結果

問1 1)

人数	回答数
1人	9 (5.3%)
2人	86 (50.9%)
3人	64 (37.9%)
4人	8 (4.7%)
5人	2 (1.2%)
計	169 (100.0%)
平均	2.5人

問1 2)

人数	回答数
1人	21 (12.4%)
2人	9 (5.3%)
3人	6 (3.6%)
4人	24 (14.2%)
5人	31 (18.3%)
6人	51 (30.2%)
7人	20 (11.8%)
8人	4 (2.4%)
9人	1 (0.6%)
10人	1 (0.6%)
記入なし	1 (0.6%)
計	169 (100.0%)
平均	4.8人

問1 3)

	回答数
はい	5 (3.0%)
いいえ	164 (97.0%)
計	169 (100.0%)

問1 4)

	回答数
はい	113 (66.9%)
いいえ	56 (33.1%)
計	169 (100.0%)

問1 5)

	回答数
はい	108 (63.9%)
いいえ	60 (36.1%)
計	169 (100.0%)

問1 6) (複数回答)

	回答数
1	* 64 (37.9%)
2	51 (30.2%)
3	16 (9.5%)
4	10 (5.9%)
記入なし	8 (4.7%)
1～4の計(延べ)	149
*5)「はい」の108名 に対して59.3%	

問2 1)

	回答数
はい	53 (31.4%)
いいえ	111 (65.6%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問2 2)

	回答数
はい	26 (15.4%)
いいえ	138 (81.6%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問2 3)

	回答数
はい	24 (14.2%)
いいえ	140 (82.8%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問2 4)

	回答数
はい	37 (21.9%)
いいえ	127 (75.1%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問2 5)

	回答数
はい	101 (59.7%)
いいえ	62 (36.7%)
記入なし	6 (3.6%)
計	169 (100.0%)

問2 6)

	回答数
はい	135 (79.8%)
いいえ	29 (17.2%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問2 7)

	回答数
はい	113 (66.8%)
いいえ	50 (29.6%)
記入なし	6 (3.6%)
計	169 (100.0%)

問2 8)

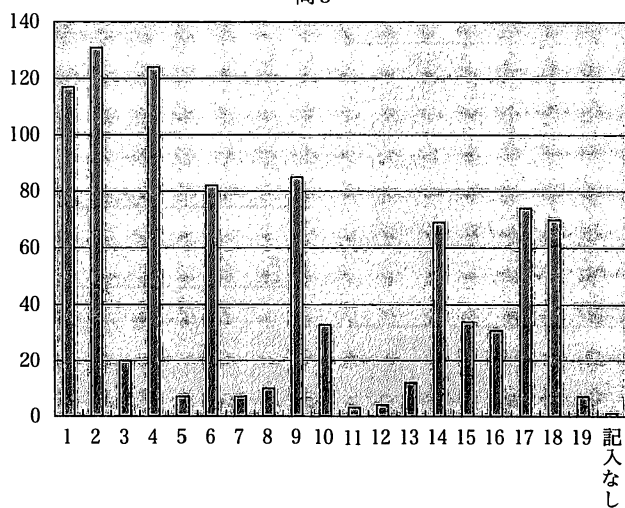
	回答数
はい	22 (13.0%)
いいえ	131 (77.5%)
記入なし	16 (9.5%)
計	169 (100.0%)

問3 1) (複数回答)

	回答数	* %
1	117	69.2
2	131	77.5
3	20	11.8
4	124	73.4
5	7	4.1
6	82	48.5
7	7	4.1
8	10	5.9
9	85	50.3
10	33	19.5
11	3	1.8
12	4	2.4
13	12	7.1
14	69	40.8
15	34	20.1
16	31	18.3
17	74	43.8
18	70	41.4
19	7	4.1
記入なし	1	0.6

* 169名に対する百分率

問3



問4 1)・2) アンケート回答者について

	年 齢					
	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳以上	計
男子	23	64	17	8	1	113
女子	10	37	4	1	3	55
不明			1			1
計	33	101	22	9	4	169

男子 113名 平均19.1歳

女子 55名 平均19.4歳

全体 169名 平均19.2歳

(性別の記入がなかった1名を含む)

問4 3)

	回答数
結婚している	2 (1.2%)
結婚していない	167 (99.8%)
計	169 (100.0%)

問4 4) 及び5) については本文参照。

問4 6)

	回答数
はい	106 (63.5%)
いいえ	12 (7.2%)
わからない	46 (27.5%)
記入なし	3 (1.8%)
計	167 (100.0%)

問4 7)

	回答数
ほしい	124 (74.3%)
ほしいとは思わない (%)	6 (3.6%)
わからない	22 (13.2%)
記入なし	15 (8.9%)
計	167 (100.0%)

問5 1)

	回答数
生後6ヵ月ごろ	55 (32.5%)
1歳6ヵ月ごろ	96 (56.8%)
3歳ごろ	12 (7.1%)
4歳6ヵ月ごろ	1 (0.6%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.0%)

問5 2)

	回答数
生後8ヵ月ごろ	18 (10.7%)
1歳6ヵ月ごろ	93 (55.0%)
3歳ごろ	49 (29.0%)
4歳6ヵ月ごろ	3 (1.8%)
記入なし	6 (3.6%)
計	169 (100.1%)

問5 3)

	回答数
生後10ヵ月ごろ	3 (1.8%)
1歳ごろ	51 (30.2%)
3歳ごろ	98 (58.0%)
5歳ごろ	12 (7.1%)
記入なし	5 (3.0%)
計	169 (100.1%)

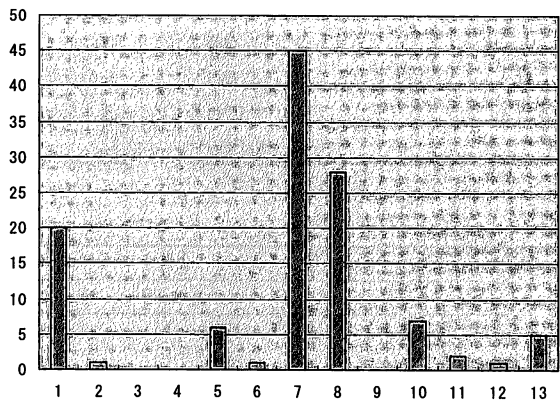
問5 4)

	回答数
生後8ヵ月ごろ	48 (28.4%)
1歳6ヵ月ごろ	83 (49.1%)
3歳ごろ	28 (16.6%)
4歳6ヵ月ごろ	4 (2.4%)
記入なし	6 (3.6%)
計	169 (100.1%)

問6 ◎印

	回答数
1	20
2	1
3	0
4	0
5	6
6	1
7	45
8	28
9	0
10	7
11	2
12	1
13	5
計 (延べ)	184

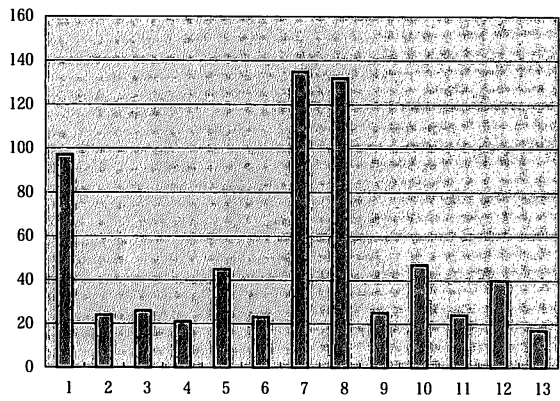
問6 ◎印



問6 ○印

	回答数
1	97
2	24
3	26
4	21
5	45
6	23
7	135
8	132
9	25
10	47
11	24
12	40
13	17
計 (延べ)	656
○も◎も記入なし	3

問6 ○印



問 7 1)

	計
はい	135 (79.9%)
いいえ	2 (1.2%)
わからない	31 (18.3%)
記入なし	1 (0.6%)
計	169 (100.0%)

問 7 2)

	計
はい	68 (40.2%)
いいえ	39 (23.1%)
わからない	60 (35.5%)
記入なし	2 (1.2%)
計	169 (100.0%)

問 7 1) と 2)

		2)				
		はい	いいえ	わからない	記入なし	計
1)	はい	59	1	8	0	68
	いいえ	29	1	9	0	39
	わからない	46	0	14	0	60
	記入なし	1	0	0	1	2
	計	135	2	31	1	169

問 7

